

外国人のための

日本語読本

—初 級—

まえがき

1. この日本語読本は、外国人で日本語を学習しようとする者に対して、その学習活動を効果的にする目的で編集したものであり、教室における副読本としても、学習者の自習用としても活用できるような配慮を加えたものである。
2. この日本語読本は、学習者の日本語習得の程度に応じて、初級・中級・上級に大別し、さらに各教育機関等の要請に応じて、分冊形式とした。
3. この初級日本語読本は、入門期から、およそ300字ほどの漢字を習得する課程にある者を対象として編集したものである。
4. 内容・題材の選定にあたっては、文化的・社会的・理科的の3グループに分けて執筆・検討した。
ただし、初級日本語読本の分冊は、必ずしもこの区分にとらわれず、題材・内容、学習者の興味、利用のさいの所要時間などを考え合わせてまとめたものであり、それぞれに比較的やさしいものから難易の順にまとめて1冊とした。
5. 初級日本語読本では、理解をいっそう容易にさせるた

35913

めに、全文を、原則として文節によるわかち書きにした。また、学習者の便宜、学習上の配慮から、本文の固有名詞・専門用語およびむずかしいと思われる漢字には適宜ふりがなをつけた。また、比較的やさしいと思われるものでも、下段にその読みを示した場合がある。なお、同様の配慮から、固有名詞、むずかしいと思われる語句、特殊な表現を用いた語句などについては、下段に簡単な解説をつけてある。

各課のあとに、学習の手びきとして、「ことばの もんだい」「内容の ^{ないよう}もんだい」をそえて、学習目標を明らかにするとともに、この教材が効果的に活用されるように配慮した。

刊 行 の こ と ば

この日本語学習教材「外国人のための日本語読本」——初級（7分冊）——は、昭和43年3月に、当時の文部省文化局で印刷に付し、関係各日本語教育機関にお送りして、試みに御使用いただいたものです。

その後、各機関から、追加配布の御希望を受けておりますが、既に在庫がなく、心ならずもお断わりをしなければならぬようなしだいでした。

そこで、文化庁では、このような各機関の御要望にこたえ、更に、日本語を学ぶ外国人や日本語の教授者にも入手しやすいようにするため出版することにしました。また、学習者がより親しみをもてるよう、文字を大きくし、また、字体も教科書体活字に改め、これに伴って判型もB5判にしました。

日本語を学ぶ方々やその教育に携っている方々が、この日本語学習教材を効果的に活用されることを希望するものであります。

昭和49年3月

文化庁文化部国語課

41.597
175
=1-(1-7)

外国人のための

日本語読本

210550/17

— 初級 1 —

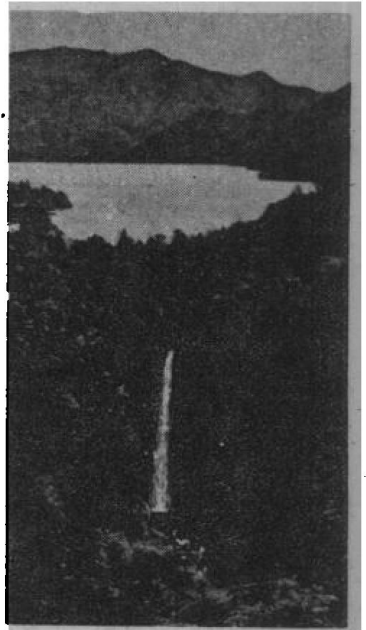
水のたび
東京タワー
つる

文 化 庁

水の たび

わたしは (1)もと 雨の ^{ひと}しずくで、そらから おちてきたのです。山の 木の かの 上に やすんで いましたが、かぜに (2)ゆりおとされて、おおぜいの 友だちと いっしょに (3)谷川の中へ はいりこみました。

谷川を くだりながら みんなは うれしそうに うたったり さわいだり しました。そのうちに 高いがけの 上に 出ました。おもいきって とびおりましたが、(4)目が くらんで、しばらくは なにも わかりませんでした。みんなが かきなり合っ て おちる 音や さわぐこえに ふと (5)気が ついて、あたりを 見まわしました。すると 2, 3人の 人が、



- (1) もと：以前，はじめ，むかし (2) ゆりおとされる：ゆすって おとされる。 (3) 谷川^{たにがわ} (4) 目が くらむ：目がまわって，なにも 見えなくなる。(5) 気

「みごとな (6)たきだ。」

と いうて、わたしたちを ながめて いました。

谷川を 出ると、あたりが 少し 広く なって きました。あちらこちらに 村の (7)家が 見えました。右からも 左からも なかまが あつまって きて、ますます にぎやかに になりました。

広い 広い のはらに 出ました。うつくしい はたけ や 田や 村が つづいて いました。その あいだを、わたしたちは、ひるは つよい 日にてらされ、よるは きれいな 月の かげを うかべながら、ゆっくり ある きました。そばを とおる 人は、

「きれいな 川だ。」

と いうて、ほめて くれました。

とつぜん 上の ほうで さわがしい 音が しました。見あげると、大きい はしが あって、人や くるまや うまが とおって いました。まもなく 町の中へ は いました。りょうがわには たくさんの 家が ならんで いました。高い えんどうも 見えました。

(6) たき：高い がけから まっすぐ ながれおちる 水。

(7) 家：
いえ

大きな おもい ものが わたしたちの 上に 来ました。にもつを つんだ ふねが とおったのでした。こうして いる うちに、わたしたちは どうとう 海へ 出ました。

海は かぎりなく 広くて、どちらを 見ても わたしたちの なかまばかりでした。わたしたちは、手を とり合って、うたったり おどったり して、よろこびました。

【ことばの もんだい】

1. 言いかたの れんしゅうを しなさい。

(1) わたしは もと 雨の 一しずくでした。

わたしは もとの 家を たずねました。

あの人は もどから からだが よわい。

(2) 高い がけの 上から おもいきって とびおり
ました。

はずかしかったが、おもいきって ほんどうの
ことを いいました。

おもいきって 5,000^{えん}円の まんねんひつを かい
ました。

(3) 海は かぎりなく 広く、^{ほし}星は かぎりなく と
おい。

かれは かぎりなく たびを つづけて いる。

2. つぎの —の ところの ことばを かんがえな
さい。

[れい] 人が あるく。

水が _____。

とりが _____。

さかなが _____。

じどうじゃが _____。

3. つぎの ことばを つかって みじかい ^{ぶん}文を い
いなさい。

(1) ゆりおとされる。ふりおとされる。ふきおとされ
る。

(2) とびおりる。とびあがる。とびこむ。とびだす。

(3) 気が つく。気を つける。気に いる。気に
なる。

(4) とつぜん。きゆうに。ふいに。ふと。

(5) どうとう。ついに。やっと。

^{ないよう}【内容の もんだい】

1. 「右からも 左からも なかまが あつまって き
て、ますます にぎやかに になりました。」とは どう

いう ことですか。

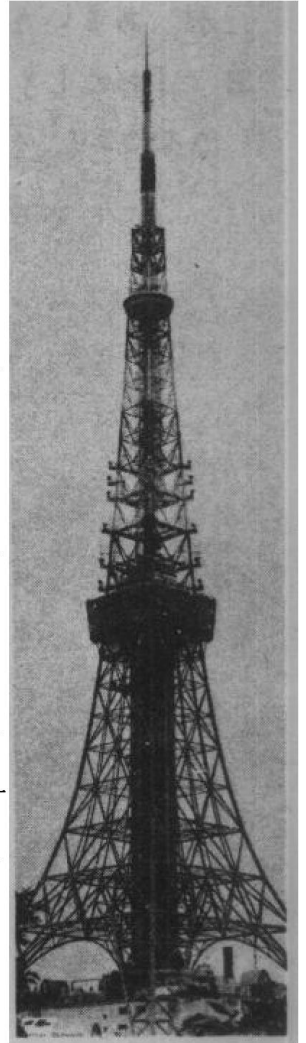
2. 「ゆっくり ありました。」と ありますが、だれ
が あるいたのですか。
3. 「わたし」の とおった ところを じゅんに か
きなさい。

(1) 東京タワー

東京タワーは (2)世界で いちばん高い (3)とうです。

東京タワーは (4)東京都 (5)港区にある 芝公園しばこうえんの中に たてられ、1958年の 12月23日から だれでも のぼれるように になりました。

東京タワーが できるまでは、世界でもっとも 高い とうは フランスの パリにある エッフェルとうでしたが、東京タワーは それよりも 13メートル高く、333メートル あります。しかも、この とうをつくる ために つかった (6)鉄などの (7)材料は エッフェル



(1) 東京とうきょうタワー：Tôkyô Tower (2) 世界せかい

(3) とう：tower (4) 東京都：東京は 日本の 首都しやと (Capital city) なので こうよばれる。(5) 港区：東京の 区 (ward)

の 一つ。Minato Ward (6) 鉄てつ (7) 材料さいりょう

どうの 半分ほどで すんだという ことです。(8)工事
の (9)期間も 一年半で、 これも エッフェルどうの
三分の一ぐらいしか かかって いないそうです。このよ
うに 少ない 材料と (10)短い 期間で、台風や ^{たいふう}じしん
に たえられる 世界^{さいこ}最高の どうが 日本に できたど
いう ことに 世界の 国々は おどろいて います。

東京タワーで もっとも たいせつなのは どうの 上
の ほうの (11)部分です。ここから テレビジョンの ^{てん}電
波^はを出し、また その ほか、けいさつや しょうぼう
などの ための とくべつの 電波も 出しています。

テレビどうの 足と 足との 間は それぞれ 80メー
トルも あって、四本の 足の 間に ^{ごかい}五階だての 大き
な ビルディングが たてられて います。その ビルディ
ングの 中には、テレビや ラジオの きかいなどを 見
せる (12)科学館^{かがくかん}も あります。その ほか ^{しょくどう}食堂や ^{ばいせん}売店
なども あって、まるで デパートのようです。

テレビどうの 150メートルの 高さの 所に二階だての

(8) 工事^{こうじ} (9) 期間^{きかん} (10) 短い^{みじか} (11) 部分^{ぶぶん} (12) 科学館：科
学に かんけいの ある ものを 人々に 見せる たても
の。

展望台^{てんぼうだい}が あり、250メートルの 高さの 所に 特別^{とくべつ}展望台が あります。3台の エレベーターが つぎつぎに 見物人を はこんで います。エレベーターで のぼると、ビルの 一階から わずか 1分^{いっぷん}しか かかりませんが、屋上^{おくじょう}から 展望台まで あるいて のぼると、563段^{だん}の 階段^{かいだん}を のぼらなければ なりません。

展望台は 約 20メートル四方^{しほう}の へやです。まどは ぜんぶ ガラスばりで、まわりの けしきが よく 見えます。はれた 日には、東京の 町々が とおくまで 見わたされ、西の ほうには (14)美しい 富士山^{ふじさん}の すがたも 見えます。

東京タワーは 東京の (15)代表的な (16)名所の 一つです。日本人でも 外国人でも 東京へ 来る (17)観光客^{かんこうきゃく}の ほとんどが 東京タワーに のぼります。

[三省堂発行「小学国語4年上」による。]

(13) 見物人^{けんぶつじん} (14) 美しい^{うつく} (15) 代表的^{だいひょうてき} (16) 名所^{めいしょ}: ゆうめいな 所。(17) 観光客^{かんこうきゃく}: けしきの よい 所や 名所などを 見物する ために りょこうして いる 人。

【ことばの もんだい】

1. 言いかたの れんしゅうを しなさい。

(1) 材料は エッフェルとうの 半分で すんだとい
う ことです。

あの人は らいげつ アメリカへ かえるとい
う ことです。

(2) 世界の 国々から 注目されて います。

世界の 国々が 注目して います。

あの人は 日本じゅうの 人々から 注目されて
います。

(3) 台風や じしんに たえられる 世界最高の と
うです。

あの人は びんぼうと ^{びょうき}病気に たえられなく
なったのです。

たえられない あつきです。

(4) 観光客の ほとんどが 東京タワーに のぼりま
す。

ほとんどの 観光客が 東京タワーに のぼりま
す。

学生の ほとんどが やすみました。

2. つぎのことばを つかって かんたんな ^{ぶん}文をつくりなさい。

(1) 期間 ^{きじつ} 期日 ^{きげん} 期限 ^{がっき} 学期

(2) 最高 ^{さいてい} 最低 ^{さいだい} 最大 ^{さいきん} 最小 ^{さいご} 最近 ^{さいご} 最後

(3) 五階 ^{ごかい} 五階だて ^{かい} 階段 ^{かいか} 階下 ^{ちかい} 地階

(4) 科学館 ^{かがくかん} 映画館 ^{えいがかん} 博物館 ^{はくぶつかん}

(5) 町々 ^{まちまち} 山々 ^{やまやま} 木々 ^{きぎ} 家々 ^{いへ} 人々 ^{ひと}

3. つぎのことばの れいを あげなさい。

代表的な ^{めいじやく}名所。代表的な ^{がくしゃ}学者。代表的な ^{やま}山。

^{ないよう}【内容の もんだい】

1. 東京タワーは なぜ 世界の 国々から 注目されて いますか。

2. エッフェルとうの 高さは どのくらい ありますか。

3. 東京タワーの いちばん だいじな しごとは どのような ことですか。

1

ことしも、いつのまにか、約 100羽^ばぐらいのつるがやって来て、大空をむれ^{やぐ}になってとんだり、「クルクル、クワー」と、ラッパのような声をひびかせたりし(1)始めました。

太郎^{たろう}と次郎^{じろう}は、家の前の、わらをつんでおく(2)小屋の中にもぐりこみました。そして、小屋のいたかべに、小さなあなを二つずつあけました。そこからつるのようすを(3)かんさつするためです。

(4)1時間、2時間、……つるのすがたはまったく見えません。ふたりがすっかりあきてしまったころ、「ガーワ、ガーワ」という大きななき声が(5)聞こえてきました。ふたりの(6)顔は、きゅうに生き生きとしてきました。ふたりのいる小屋から10メートルとははなれていない目の前に、つるがまい

(1) 始める (2) 小屋 (3) かんさつする：なにかをしらべたり、知ったりするために、ものごとのようすをよく見る。(4) 1時間 (5) 聞こえる (6) 顔

おりたのです。(7)まなづるです。しかも ^{よんば}4羽です。2羽が (8)親づるで、あとの 2羽が 子づるです。親づるの 1羽が、その (9)長い (10)首を 空の ほうに のばすと、「クルー」と、ラッパのように よく ひびく 声を あげました。すると、ほかの 1羽が、こんどは 前の ほうに 首を 長く のばして、うつむくような ようすで 「クックッ」という なき声を出しました。これを 何回も ^{つづ}続けるのです。ふたりは じっと 見つめて いました。

ふたりの いる 小屋の 前の たんぼが、この つるの (11)一家の えさを さがす (12)場所らしくて、(13)毎日 ここに やって来ます。ふたりは、ひまが あると 小屋に はいって、ねっしんに つるを かんさつしました。

(7) まなづる、つるの ^{いっしゅ}一種。秋に シベリア (Siberia) の 東の ほうから 日本へ とんで 来て、春に ^{はる}また シベリアへ かえる。(8) ^{おや}親づる (9) ^{なが}長い (10) ^{くび}首
(11) ^{いっか}一家 (12) ^{ばしょ}場所 (13) ^{まいにち}毎日